

月報だより

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

- 1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

名古屋大学太陽地球環境研究所教官

- 1. 1名 (助手)
2. (1) 太陽圏環境部門 (2) 愛知県豊川市
3. 惑星間空間物理学および太陽物理学

当研究部門では、太陽風、太陽中性子、先史宇宙物理学、宇宙線変動、太陽圏大規模構造、宇宙ガンマ線、MACHO 等の観測的な研究を行っています。今回の公募では、太陽風の観測プロジェクトに参加し、太陽風及びその関連する領域の研究を推進できる意欲的な方を希望します。太陽風観測は、主として電波科学的手法を用いて行われ、当研究所が所有する4台の大型UHF電波望遠鏡の他、他機関の電波望遠鏡を利用して行われています。近年、国内VLBIシステムを用いた太陽風プラズマ観測も開始されました。また、海外の電波望遠鏡施設を利用した観測を計画するとともに、豊川キャンパス内に大型のマイクロ波アンテナの建設も計画しています。全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分に理解し、当該部門の研究に積極的な役割を果たす方を希望します。当研究所は、理学研究科及び工学研究科の大学院生を受け入れており、大学院教育に熱心な方であることも希望します。

- 5. (1) 決定後できるだけ早い時期。
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上の人。
7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷り、研究計画書。自薦の場合は、本人についての意見を述べられる方2名の氏名と連絡先、他薦の場合は2人からの推薦書。
8. 平成9年10月31日
9. (1) 〒442 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 國分 征
Tel 0533-89-5182 Fax 0533-84-8806
(2) 問い合わせ先
同研究所
小島正宜 Tel 0533-89-5175

kojima@stelab.nagoya-u.ac.jp
徳丸宗利 Tel 0533-89-5176,
tokumaru@stelab.nagoya-u.ac.jp

10. 封書に「教官応募書類在中」と朱書し、書留で送付のこと。

11. 選考方法
名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて同教授会で決定します。なお、該当者がいない場合は決定を保留します。

COE 研究員

本研究所は、「太陽地球環境の構造と動態の研究」を目的とする全国共同利用研究所として活動を続けています。本研究所が関わる太陽地球系科学は、太陽からのエネルギー放射によって支配される地球周辺から、太陽圏までの広大な領域で起こる現象を研究対象としており、大気圏環境、電磁気圏環境、太陽圏環境及び総合解析の4研究部門と1客員部門(国内客員及び外国人客員)のもとに研究を推進しております。

COE 研究員は、平成7年度から卓越した研究拠点(COE)の形成を目指した中核的研究機関支援プログラムの一環として発足した文部省の新たな研究員制度によるものです。本研究所では以下の内容で、本研究所教官と協力して研究を行う意欲的な若手研究者を公募いたします。

- 1. 1名
3. 太陽地球系科学
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
(2) 1年(審査の上、1年更新可能)
6. 次のすべての条件を満たしている者。
・採用日現在で年齢35歳未満。
・博士の学位を有しているか、又は学位取得が確実であること。
・着任予定時に主たる職、或いは大学院生、研究生等の身分を有しないこと。
7. 封筒の表に「COE研究員応募書類在中」と朱書し、以下(1)から(6)までの書類を書留でご提出下さい。
(1) 履歴書(2) 研究歴(3) 研究計画(4) 論文リスト及び主要論文別刷り各1部(3編以内)(5) 着任可能時期(6) 自薦の場合は本人について意見を述べられる方2人の氏名と連絡先を記した書面、他薦の場合は2人の方からの推薦書(健康に関する所見も含む。)
8. 平成9年8月20日(水)必着
9. (1) 〒442 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所 所長 國分 征あて
(2) 同上(直通電話 0533-89-5182)
11. 身分・待遇 一般職の非常勤職員(講師)
月額約30万円(経歴等により若干の増減あり)

平成 10 年度 国立天文台外国人客員教授候補の推薦について

下記により平成 10 年度国立天文台外国人客員教授候補者を募集しますので、ご推薦願います。

1. 国立天文台所属の受け入れ責任者を通じての応募に限ります。
2. 公募分野は、以下の 4 部門です。
 1. 光学赤外線観測（光学赤外線天文学・観測システム研究系）
 2. 天体物理基礎理論（理論天文学研究系）
 3. 電波天文観測（電波天文学研究系）
 4. 地球力学（地球回転研究系）
3. 推薦される候補者がある場合は、受け入れ責任者とは相談の上、所定の申込書を作成し、関連資料（略歴等・論文リスト等）を添えて、9 月 3 日（水）までに管理部庶務課共同利用係へご提出ください。申請書書式その他については、共同利用係にお問い合わせ下さい。
TEL. 0422-34-3660
国立天文台長 小平桂一

北海道大学大学院理学研究科教官

1. 教授 1 名
2. (1) 北海道大学大学院理学研究科
地球惑星科学専攻地球惑星流体科学講座
(2) 札幌市北区北 10 条西 8 丁目 北海道大学大学院理学研究科
3. 地球惑星大気物理学およびその関連分野
4. 上記分野の研究、および大学院と学部における教育
5. (1) 平成 10 年 4 月 1 日（予定）
7. (1) 履歴書（学会活動状況についても別紙に付記して下さい）(2) いままでの研究概要（2,000 字以内、研究業績との関連をわかりやすく）(3) 研究業績目録（原著論文・著書・総説と報告書等に分けて記載）(4) 主な原著論文別刷り 5 篇（複写可）(5) 今後の教育・研究の計画・抱負（2,000 字以内）(6) 科学研究費等の採択状況、国内外の研究プロジェクト等への参加状況 (7) その他、学位論文審査の件数（審査年、主査・副査の別、博士、修士の別）
8. 平成 9 年 9 月 16 日（火）（必着）
9. (1)(2) 〒060 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学大学院理学研究科
地球物理学教室主任 播磨屋敏生
電話 011-706-3576 FAX 011-746-2715
10. 封筒の表に「教官公募（大気関係）」と朱書きし、書留にてお送り下さい。

北海道大学大学院理学研究科教官

1. 教授 1 名
2. (1) 北海道大学大学院理学研究科
地球惑星科学専攻地球惑星流体科学講座
(2) 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学大学院理学研究科
3. 地球惑星流体物理学およびその関連分野
4. 上記分野の研究および大学院理学研究科の教授として、大学院と学部における教育。
5. (1) 平成 10 年 4 月 1 日（予定）
7. (1) 履歴書（学会活動状況についても別紙に付記して下さい。）(2) いままでの研究概要（2,000 字以内、研究業績との関連をわかりやすく）(3) 研究業績目録（原著論文・著書・総説と報告書等に分ける。）(4) 主な原著論文別刷り 5 篇（複写可）(5) 今後の教育・研究の計画・抱負（2,000 字以内）(6) 科学研究費等の採択状況、国内外の研究プロジェクト等への参加状況 (7) その他、学位論文審査の件数（審査年、主査・副査の別、博士、修士の別）
*平成 9 年 5 月 15 日付で「地球惑星大気物理学およびその関連分野」も公募中です。両公募への応募も可能です。
8. 平成 9 年 10 月 6 日（月）（必着）
9. (1)(2) 〒060 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学大学院理学研究科
地球物理学教室主任 播磨屋敏生
電話 011-706-3576 FAX 011-746-2715
10. 封筒の表に「教官公募（流体関係）」と朱書きし、書留にて郵送して下さい。

国立ぐんま天文台「観測普及研究員」

1. 若干名募集します。
 4. 研究活動と教育普及を両立します。
 5. 平成 10 年 4 月 1 日
 6. (1) 22 歳以上（平成 10 年 4 月 1 日現在）、国籍問わず。
(2) ①大学・大学院で天文学等を専攻した者。
②望遠鏡や装置の操作・開発の経験のある者。
③これらと同等の知識や技能を有する者。
 7. ①履歴書 ②研究歴や教育活動歴、特記すべき実績。
③抱負（1,000～2,000 字）「天文台で行いたい研究活動、教育・普及活動」。①②③様式問わず。
- 受付期間及び天文台概要の配布
受付：7 月 22 日（火）～8 月 31 日（日）（31 日消印有効。）
概要配布：返信用切手 190 円を同封し申し込む。
9. 〒371 群馬県前橋市大友町 1-18-7
群馬県教育委員会管理課天文台管理係 下田明英
電話:027-254-2882 FAX:027-254-2883

研究助成

平成9年度宇宙科学研究助成候補者募集
(国際研究集会参加費用補助)

宇宙科学振興会(理事長 関本忠弘)では、下記の参加希望者を募集します。関心のある方は募集要項・申請書を請求の上、お申し込み下さい。

1. 助成対象:宇宙理学(地上観測を除く)及び宇宙工学(宇宙航空工学を含む)に関する独創的・先駆的な研究活動を行う若手研究者(昭和37年4月2日以降生まれの者に限る)で、国際研究集会で論文発表が原則として確定している者。但し論文発表採択が未確定の場合でも申請できますが論文発表が条件となります。

*なお、大学・研究機関等所属長の承諾を得て応募して下さい。

2. 援助金額:1採択当たり約20万円

3. 申込受付期間:随時受け付けます。

(選考は年3~4回)

4. 採択件数:年間10件程度

5. 照会先:(財)宇宙科学振興会事務局

TEL 0427-51-1126

〒227 神奈川県相模原市由野台3-1-1

宇宙科学研究所内

*この研究助成は、昨年度まで若手研究者へ1件300万円の助成を行っていたもので、今年から助成方法が変更になったものです。

平成9年度 東レ科学技術賞・研究助成

東レ科学振興会から次の概要が届きましたのでお知らせいたします。応募用紙は日本天文学会までご請求下さい。

I. 東レ科学技術賞(概要)

1. 候補者の対象……天文学会に関する分野で、下記に該当するもの

- (1) 学術上の業績が顕著なもの
- (2) 学術上重要な発見をしたもの
- (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
- (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの

2. 科学技術賞……1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円、2件前後。

3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内

II. 東レ科学技術研究助成(概要)

1. 候補者の対象……天文学会に関する分野で、基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進

歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者。

2. 研究助成……総額1億3千万円、10件程度。

3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内。

III. 学会必着日(I, IIとも)……平成9年9月10日(水)

1997年度朝日賞候補者の推薦について

朝日新聞文化財団より標記の依頼がきております。推薦票は天文学会にあります。

1. 候補者の対象:わが国のさまざまな分野で業績をあげ、文化・社会の向上に貢献された個人または団体。

2. 天文学会の締切:1997年8月15日(金)必着

3. 発表:1998年元日の朝日新聞紙上。

日本証券奨学財団

平成9年度研究調査助成募集

標記助成金の募集要項が、学会宛に届いております。対象者は、大学に於いて学術文化の研究調査に従事している個人又はグループで、研究者は55歳以下ですが、グループ代表者は55歳以下とは限りません。

理学・工学については、新素材及び環境改善に関する萌芽的研究。

◎助成金総額:6,000万円

1件につき100万円程度で、多額の経費を必要とする特別研究調査は、300万円以内。

◎申請の手続:助成金の申請は、本財団所定の申請書(天文学会にあります)に所属機関の長及び専門の学者の推薦書を添え、平成9年8月20日(水)までに本財団までに提出する。なお、申請は1大学当たり1部門につき2件以内とする。

研究会・集会案内

[PAONET要項]

「1997年度公開天文台ネットワーク加入団体募集」のお知らせ

「公開天文台ネットワーク(略称PAONET~パオネット)」は、1995年11月から正式に稼働しており、現在約100の団体が参加されております。PAONETは国立天文台が広報普及活動の一環として、各地の公開天文台・プラネタリウム・科学館・教育センター・学校などに対し、電話回線を通じて天文の最新画像や情報などを提供するシステムです。

加入資格：

- ・天文の普及・教育を目的とした非営利団体
 - ・所属長の承認が必要
 - ・担当者にコンピュータの基礎知識がある
 - ・担当者が電子メールアドレスを持っている
 - ・Windows が動作するパソコン、電話回線、モデムがある。(Linux などでも実績が作られつつあります)
- ※営利団体・個人の参加はできません。

加入された後の義務は：

- ・運用規則の遵守
- ・年度末に報告書を提出
- ・担当者はユーザーズミーティングへ出席する
- ・電子メールによる連絡システム(メーリング・リスト)への参加(故に、担当者が電子メールアドレスを持っていることが必須)

1997年度の募集を8月1日～8月31日の約1ヶ月間、加入者申請を受け付けます。加入される予定の団体には、10月7日(火)大阪市立科学館(大阪)にて行われる予定の、PAONET新規ユーザー向けミーティングを開催し、各種の説明及び資料の配布が行われます。その後、同日全体のユーザーミーティングへも参加して頂きます。

PAONETの資料や加入申込書などの請求、ご質問は下記宛に郵便、FAX、電子メールにてお願いします。(電話でのお問い合わせは、担当者が不在の場合もありますので極力お避け下さい)

PAONET事務局(国立天文台広報普及室内)
〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
電話：0422-34-3688 FAX：0422-34-3810
電子メール：paomgr@pub.mtk.nao.ac.jp

宇宙生命科学シンポジウムのご案内

日本宇宙生物科学では第11回大会行事の一環として下記の要領で公開シンポジウムを開きます。奮ってご参加ください。

テーマ：地球外生命、その可能性、そして期待
日時：1997年9月20日(土)14時～16時50分
場所：東京大学教養学部視聴覚ホール
〒153 東京都目黒区駒場3-8-1
京王・井の頭線・駒場東大駅前下車3分
駒場キャンパスの図書館に付随

参加方法：当日受け付け、先着150名まで

参加費：無料

講師および演題：

- 石川洋二(大林組)「火星の生命・その後」
- 長野 敬(自治医大)「生命の起源・進化から考える地球外生命の様式」
- 森本雅樹(鹿児島大)「『文明』という『物質相』」
- 金子隆一(科学ライター)「もしその日がきたら」

問い合わせ先：〒194 東京都町田市南大谷11

三菱化学生命科学研究所 河崎行繁
電話 0427-24-6289 FAX 0427-24-6317
E-mail：kawasaki@libra.ls.m-kagaku.co.jp

天の川を取り戻そう！ IDA と「星空を守る会」合同総会のご案内

「星空を守る会」の古在由秀博士(前国立天文台台長)が昨秋欧州を訪問されたおり、IDA(International Dark Sky Association：国際ダークスカイ協会)のクロフォード博士から日本でのミーティングの提案がありました。このミーティングが本年8月24日に実現します。IDA日本総会(Regional Meeting)と「星空を守る会」の総会を合同で開催するものです。開催日と場所は次の通りです。

日時：8月24日(日)午前10時～午後4時
場所：ホテル京阪京都・会議室、京都駅より徒歩1分

☎ 075-661-0321

内容：各地のライトダウン等の報告・クロフォード博士の講演・その他 参加費：資料込み2,000円、ただし星空を守る会の会員とIDAの会員は無料 事前に昼食(弁当)をお申し込みいただければ、会場にてご用意致します。料金は2,500円です。宿泊を希望される方は、各自で予約してください。参加申し込み締め切りは8月10日まで。ただし、会場の都合で定員を超えた場合はお断りすることもありますのでご了承下さい。

IDAは、会員約2,000人を世界中に持ち、光害を憂くなくする活動を進めている米国の非営利団体です。1970年代クロフォード博士が勤務していたアリゾナ州のキットピーク天文台を光害から守る活動がIDAの発端です。その後IDA影響により50以上の市町村そして州で光害を防ぐ効果的な照明条例が生まれています。我が国の照明改善活動、光害条例等についてもIDAの影響を大きく受けています。IDAは、光害を天文だけではなく照明のエネルギーと眩しさ、そして環境の問題として据えています。照明の質と量を犠牲にすることのない提案は、誰もが支持出来る新しい据え方です。「星空を守る会」は、日本でIDAと同様に活動し全国約200人の会員が積極的な活動を続けています。二つの組織が合同で総会を開き、光害を天文と、屋外照明の持つエネルギー、眩しさ、そして環境の問題として据えた活動を紹介し、照明問題を再度見直す機会を与えてくれます。都市郊外でも天の川を取り戻す事は決して不可能ではありません。その方法をあなたも見つけましょう。総会の詳細と参加をご希望の方は、下記へご連絡下さい(インターネットでも紹介しています)

星空を守る会：

〒407-03 山梨県北巨摩郡高根町清里3545 大友 哲

電話 0551-48-3822
 わかばだい天文同好会：
<http://www2a.meshnet.or.jp/wakaba/>
 E-mail:suchida@mx.meshnet.or.jp

第30回日本アマチュア天文研究発表大会

主催：第30回神奈川大会実行委員会，ほか
 日時：1997年10月11日(土)～12日(日)
 会場：〒243-04 海老名市上郷476-2
 海老名市文化会館 TEL 0462-32-3231
 事務局：〒243-04 海老名市東柏ヶ谷2-19-5
 海老名天文同好会 高橋典嗣
 TEL/FAX 0425-91-5968
 発表申込：締め切りは8月31日，詳細は事務局まで
 参加申し込み：当日会場で受け付けをしてください
 諸費用：参加費は無料；(資料代(予稿集など)500
 円；研究集録代2,000円；記念写真代1,000円；懇親
 会費7,000円(第一ホテル)

第47回科学講演会のご案内

時：平成9年9月30日(火)開演18時終演20時45分
 所：有楽町朝日ホール(有楽町マリオン11階)
 東京都千代田区有楽町2-5-1(JR有楽町駅前)
 テーマ：“光でどこまで，光はどこまで”
 I. 集まる光，広がる光—発展する光エレクトロニクス—
 東京工業大学精密工学研究所長・教授 伊賀健一
 II. 光で見えないものを光で見る，あやつる，加工する
 東京工業大学総合理工学研究科・教授 大津元一
 その他：入場無料，定員638名
 (当日会場先着順・開場17時30分)
 ☆予約の必要はありません。
 ☆ご来聴の方には，後日講演記録を進呈いたします。
 主催：東レ科学振興会
 後援：朝日新聞社・応用物理学会・電子情報通信学会

会務案内

日本天文学会早川幸男基金援助者募集要項

日本天文学会 早川幸男基金(若手海外学術研究援助

基金)内規に基づき，海外学術研究に対して旅費の援助を希望する者を募集(1997年度第3期)致します。

1. 援助金総額 年間120万円(1997年度)
2. 援助件数 年間10件程度
3. 募集対象期間 1997年10月1日～12月31日の間に日本を出発するもの。また前回の応募時に間に合わず，すでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。
4. 応募必要書類(少なくともコピーの分はA4紙に統一すること)

原本1部，コピー5部。書類(特にコピーの分)に不備があると審査段階で不利益を被る恐れがありますのでご注意ください。

- (1) 応募用カバーシート(第90巻5号249頁の応募用紙をA4に拡大コピーして使用する)。なお，渡航目的と応募者の研究内容との関連は詳しく書くこと。
- (2) 論文リストを含む研究業績
- (3) 観測については，観測割当通知および観測提案の写しか，それに準ずるもの
- (4) 国際共同研究については，渡航先の招聘状および研究計画の概要
- (5) 研究会参加については，当該研究会開催の主旨を説明する資料，プログラム，および応募者の寄与(口頭発表等)を証明するもの
- (6) 大学院生の場合，研究指導者の意見書
- (7) 航空運賃の見積書
- (8) 関連研究論文の写し(一編)
5. 応募締切：1997年9月10日必着
6. 決定時期：1997年9月下旬
7. 応募書類送付先：

〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内
 日本天文学会 早川基金募集係

*早川基金内規(天文月報第90巻第5号参照)による援助対象資格は「日本天文学会会員で，原則として35歳以下の天文学研究者であって，この基金以外の海外渡航費(滞在費を除く)の援助を受けない者。」です。

1997年はこの後，12月10日締め切りで1998年1-3月出発分の募集を行う予定です。応募希望者は書類等の準備をしてください。

編集委員	末松芳法(編集長)，上野宗孝，大橋正健，小谷太郎，辻本拓司，野口邦男，平野尚美，宮坂正大
平成9年7月20日	発行人 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円)	発行所 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
電話(0422)31-1359(事務室)5488(月報・欧文編集)5487(FAX専用)	振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ	http://www.tenmon.or.jp 月報編集 e-mail: gjjimu@tenmon.or.jp